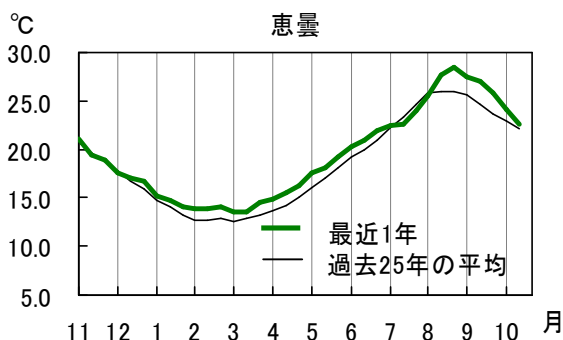
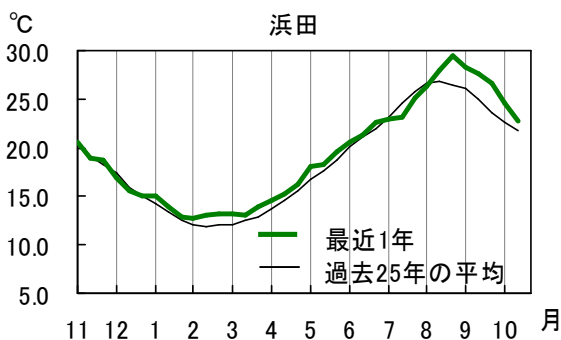




## 《9-10月の海況》

9月	月平均	平年差	評価
浜田	27.6℃	+2.7℃	かなり高め
恵曇	26.8℃	+2.1℃	かなり高め

沿岸定地水温は、9月は浜田、恵曇ともかなり高めとなりました。10月に入ってから浜田は平年よりかなり高め、恵曇は平年よりやや高めに推移しています。



## 《9月の漁況》

## 【中型まき網漁業】

浜田、浦郷ではマアジ主体、西郷ではマアジ、ブリ主体の漁況でした。各地区とも漁獲量は平年を2~3割程度下回りましたが、漁獲金額については、浜田、浦郷はマアジの漁獲サイズが大きく平均単価が高かったことから平年を上回り、西郷は単価の高いブリが多く漁獲されたことから平年並みとなりました。

## 【イカ釣漁業】

浜田港(属地5トン以上)ではケンサキイカ中心の漁況で、前月と同様に漁獲量は平年の6割と低調でした。西郷(属地5トン以上)も浜田と同様にケンサキイカ中心の漁況で、前月に引き続いて漁獲量は平年の5割と低調でした。

## 【沖合底びき網漁業】

浜田港では1ヶ統1航海あたり漁獲量は前年、平年(過去10年平均)を上回りました。漁獲の主体はソウハチ、ムシガレイ、アンコウでした。ムシガレイ、ケンサキイカは前年に対し4~5割減少しましたが、ソウハチは平年の4倍漁獲されました。

## 【小型底びき網漁業】

久手地区ではアンコウ、ニギス、キダイが、和江地区ではアンコウ、キダイ、メイタガレイが主に漁獲されました。総漁獲量、1隻1航海あたり漁獲量とも前年、平年を上回りました。好調のアンコウは両地区ともに前年の約3倍の漁獲がありました。

## 【定置網漁業】

出雲地区ではマアジ、サワラ、ブリ、カジキ類などが主体で漁獲量は平年の6割にとどまりました。石見地区ではサワラが多く漁獲されましたが、マアジが低調で漁獲量は平年の6割でした。隠岐地区ではマアジ、ブリ、カワハギ類などが多く漁獲されましたが漁獲量は平年の7割にとどまりました。

## 【釣・縄】

各地区ともケンサキイカ主体の漁況で、漁獲量は各地区とも平年の8割とやや低調でした。ケンサキイカ以外では、石見地区ではメダイ、アマダイなどが、出雲地区ではアマダイ、メダイなどが、隠岐地区ではカサゴ・メバル類、クロマグロなどが漁獲されました。

**大型クラゲ情報**：10月中旬に入り定置網では石見部の入網数は平均数個/日と減少しています。出雲部・隠岐では減少傾向にあるものの数十~1000個/日と依然多い状況です。小型底びき網では入網数が1網平均数個程度に減少していますが、水深120m以深では大型の個体が入網しています。山口沖で操業の沖合底びき網でも入網数は減っています。

【平成19年9月の漁獲統計】

漁業種類	水揚港	主要魚種	総漁獲量			CPUE(1隻(統)1航海あたり漁獲量)			漁模様
			漁獲量	前年比 %	平年比 %	漁獲量	前年比 %	平年比 %	
まき網 (中型・大 中型)	浜田	マアジ、サワラ	220トン	291	79	20トン	132	106	○
	西郷	マアジ、ブリ	2,743トン	86	64	39トン	119	92	○
	浦郷	マアジ、マサバ	2,303トン	132	78	40トン	168	119	○
イカ釣り (5トン以上)	浜田	ケンサキイカ、スルメイカ	104トン	108	57	212kg	92	80	▲
	西郷	ケンサキイカ、スルメイカ	23トン	92	49	104kg	50	61	▲
沖合 底びき網	浜田	ソウハチ、ムシガレイ、アンコウ	303トン	104	87	13トン	113	124	◎
小型 底びき網	久手	アンコウ、ニギス、キダイ	264トン	105	126	751kg	100	113	◎
	和江	アンコウ、キダイ、メイタガレイ	341トン	112	121	743kg	111	109	◎
定置網 (大型)	浜田	サワラ	22トン	88	88	596kg	68	61	▲
	美保関	マアジ、サワラ、カジキ類、ブリ	48トン	23	54	533kg	25	52	▲
	浦郷	マアジ、カジキ、カワハギ類	8トン	29	45	308kg	36	37	▲
釣り・縄	仁摩	ケンサキイカ、メダイ	19トン	115	93	40kg	90	91	○
	大社	ケンサキイカ、ブリ、カサゴ・メバル類	10トン	61	87	20kg	73	83	○
	西郷	クロマグロ、ケンサキイカ、カサゴ・メバル類	15トン	197	71	35kg	146	99	○

平年比：過去5年（沖底のみ10年）の平均値との比較 漁模様（CPUE）：◎が平年以上、○が平年並み、▲が平年以下